



鳥取砂丘に立つナショナルトラスト全国大会の実行委員ら。残し伝えていくべき原風景は、まだまだたくさんある

「ナショナルトラスト」という言葉がある。貴重な自然を開発から守るため、市民から寄付を募って土地を買い取り、後世に残していくという市民運動のことだ。英国が発祥の地で、国内では北海道の知床半島での活動などが知られている。

この運動の普及を目的とした全国大会が、十一月に鳥取市で開かれる。トラスト運動が根付いていない鳥

取で、なぜ全国大会を？ そのいきさつをたどっていくと、きっかけを作った二人の熱い男性に出会うことができた。三重県で里山の保全に取り組む伊井野雄二さん(左)と若狭町出身の「岩美自然学校」代表の沢健一さん(右)だ。



氷ノ山系を流れる勇壮な滝。川の源流には自然が織り成す美しい風景が眠っている。氷ノ山ネイチャークラブ提供

伊井野さんは、高校卒業後に福祉系の大学に進学。三重県名張市の診療所で、医療ケースワーカーとして働いていた。診療所の周辺には「赤目の森」と呼ばれる美しい里山が残っていたが、九〇年代にゴルフ場や産廃処分場の建設計画が相次いで浮上。伊井野さんはこれを阻止するため、支援者らと周辺の土地を買い取るトラスト運動を展開。計画を白紙に追い込んだ。現在は買い

取った里山の保全活動を精力的に続けている。

みんなの手で守り継ぐもの

一方、沢さんは九一年に岩美町で地域活性化グループを立ち上げ、さまざまな地域活動に取り組んできた。同町出身の元国連大使・澤田麻三が唱えた「三愛」精神(人類愛、母子愛、郷土愛)に共感、浦富海岸に自然学校を開校し

「鳥取には美しい自然が残っているが、恵まれ過ぎていて多くの方は気付いていない。これらの風景が損なわれる前に、自然環境保護の取り組みを鳥取にも広げたい」。日本ナショナルトラスト協会の理事も務める伊井野さんは昨年、「鳥取でトラスト運動の全国大会を開いてくれないか」と沢さんに提案した。

氷ノ山の懐で育った伊井野さんは幼少時代、川に潜ってはアユやウグイを追いかけ、収穫後の田んぼに入ってはワラで遊んだ。こうした故郷の原風景は今もふたに焼き付いており、異郷の地で自然保護活動に汗を流す伊井野さんにとって大きなエネルギー源だった。

沢さんによると、土地を買い取るばかりでなく、市民による公有地での自然保護運動そのものがトラスト運動に含まれるのだという。多くの国立・国定公園を擁する鳥取県には、まさにうってつけの取り組みなのだ。

「森林に川、海に砂丘。鳥取の自然はすべて結び付いており、これらは一体的に守っていかねばならない。子どもたちのために何かしよう、汗を流そう。トラスト運動を通し、そんな大人たちの輪を広げていきたいですね」。沢さんはこう話し、にっこりと笑った。

山陰の間伐材を利用した紙容器入りドリンクプレゼント

子どもたちに自然の素晴らしさを伝えてきた。そんな二人は四年前、鳥取県内で開かれたNPOの研修会で知り合った。沢さんは、講師として招かれた伊井野さんの話に感銘を受け、以来交流を続けている。

大会を機に自然を守るネットワークを県内に広げることができた。沢さんは、この提案を快諾。県内の団体やNPO、行政に協力を呼び掛け、実行委員会を組織した。大会のテーマは、「砂丘・海・山から美しい景観を育てる」伝え残す鳥取の原風景」とした。

大会を機に自然を守るネットワークを県内に広げることができた。沢さんは、この提案を快諾。県内の団体やNPO、行政に協力を呼び掛け、実行委員会を組織した。大会のテーマは、「砂丘・海・山から美しい景観を育てる」伝え残す鳥取の原風景」とした。

企画・編集
 新日本海新聞社企画開発部

山陰両県の森林保全などに取り組むNPOなどが参加して「森林を守ろう! 山陰ネットワーク会議」が設立されました。新日本海新聞社は活動の趣旨に賛同して同ネットワーク会議などの協力で森林保全の輪を広げる企画を来年3月まで随時掲載します。

森林保全活動レポート
 その⑪

建築家の卵に、どんどん山に入るとことん木の良さを実感してもらってます。



豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守ろう!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

「建築家が木以外の建築材料を選んでいるのは、木の良さを学生時代に身につけていないからではないか。高校生が山に入って木を育てる体験をすれば、将来、彼らは積極的に木を住宅にとりいれるのではないかと。そう考えて、3年前に高等専門学校に相談しに行ったのです。」

鳥取県米子市で工務店を営んでいる田田猛さんは、木造住宅を推進する協議会のメンバーとして、仕事仲間や鳥取県西部総合事務所林業振興課と連携し、米子工業高等専門学校の建築学科3年の授業に参加されています。

3年生は、授業の一環として下草刈りや間伐を体験。自分たちで育てた木を切り出して、ベンチをつくります。

「この授業は、建築のプロと高校生と一緒に取り組む画期的なもの。今後もぜひ続けていきたい。」木の良さとことん知っている田田さんの指導にも熱が入ります。



下草刈りに使用する機械の取扱いもしっかり学んでいます。

今回の森林保全活動レポートその⑪に登場する

鳥取県木造住宅推進協議会西部支部

木造住宅の普及促進を目的に、自然素材として優れた特性をもつ木の良さを様々なかたちで紹介しています。

お問い合わせは田田工務店まで
 〒683-0804 鳥取県米子市米原8丁目10-39
 TEL.0859-34-7743 FAX.0859-34-7752

森林を守ろう! 鳥取県

山陰ネットワーク会議
 参加団体のみなさん
 (9月20日現在)

※50団体

NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市)
 NPO法人 サカズキネット(倉吉市)
 広葉樹文化協会(鳥取市)
 財団法人 南部町地域振興会(南部町)
 大山横手道上ブナを育成する会(米子市)
 鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
 鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
 トリネット(米子市)
 日野川の源流と流域を守る会(日野町)
 丸山生産森林組合(伯耆町)

鳥根県

出雲市林業振興協議会(出雲市)
 NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市)
 NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市)
 源流の森里山づくり(邑南町)
 財団法人 鳥根県西部山村振興財団(浜田市)
 里山を育てる会(松江市)
 しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市)
 薪ストーブ同好会(松江市)
 松江ネイチャーゲームの会(松江市)
 木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市)
 森の仲間(出雲市)
 遊木民倶楽部(益田市)

※新しく参加された団体

NPO法人 とっとり希望化計画21(鳥取市)
 杉の雫・吟醸の会(智頭町)
 三朝温泉かじか蛙保存研究会(三朝町)
 森っ子倶楽部(鳥取市)

特別協賛

新日本海新聞社
 山陰中央新報社

特別協力

凸版印刷株式会社

この広告に関するお問い合わせは事務局まで

山陰合同銀行 地域振興部内
 鳥根県松江市魚町10 〒690-0062
 TEL.0852-55-1820

